

平成 25 年 11 月 24 日 - 第②回地域会議概要

コーディネーター：三重大学地域戦略センター専任研究員 加治 宏基

分科会 テーマ：「子どもを3人育てられるまち」（教育・子育て）

参加者：4名

【教育・子育て】

- ・実際に、現在3人の子こどもを子育て中の方や、既に子育てを経験済みで孫もいらっしゃる方の率直な意見を聞くことができた。
- ・現役で子育てをしている方は、子育てに関する金銭的な悩みが多く聞かれた。
- ・桑名市では、3人目の保育料が有料であること、また、保育所が預かってくれる時間帯(19時過ぎまで預かってほしい・親が就労を開始する4/1から保育してほしい)について、行政側に柔軟な対応をお願いしたい。
- ・親世代としては、『子どもを3人育てられるまち』を掲げるのであれば、まず、金銭的な負担を軽減する制度の導入が必要ではないか。
- ・学童保育の制度についても改善が必要であると思う。学童保育は行政主導ではなく、地域に住む父母会が中心となって運営しているが、仕事をしながら父母会を運営することが負担で学童を離れる親世代もいる。
- ・現状の学童保育の制度は、指導員の面接や学童保育料の決定など、運営全般において父母会が決めなければならないこと、また、団地のように同世代が集まる地区では子どもの増減が一定時期に固まってしまい、児童の多い地区は施設の狭さに悩み、児童の少ない地区は保育料の高騰や父母会運営事務の負担増に悩んでいるようである。
- ・具体的には、現在は陽だまりの丘地区が子育て世代が多く子どもが多いが、筒尾・大山田地区の家庭は子どもが成人し市外へ移住しているので子どもをあまり見かけない。筒尾地区では子ども会のない地区もある。
- ・『子どもを3人育てられるまち』をテーマにするのならば、現在、行政から不審者情報が毎日のように親の元に届くため、『子どもを“安全に”育てられるまち』づくりを求めていきたい。
- ・自治会によっては、住民による青パト活動が行われているが、住民の高齢化にともない外出が困難な方もみえるので、ボランティア要員の慢性的な不足に悩んでいる。
- ・高齢者だけで住む世代は、本人のためにも地域との関わりが重要であるが、特に男性は退職後の生活ですぐに近隣住民と関わるのが難しく、結果として自宅にこもってしまうケースが多い。
- ・退職した高齢者の中には、現役時代に会社の幹部だったり、大学教授であったり、絵画がプロ並みに上手であるなど、才能を地元のために活かさないもったいない方がたくさん

んいる。才能や技術を次世代の子ども達にぜひ教えてほしいと思える方がみえるので、子ども会や地元のイベントなどで世代間の交流をすることで地域の活性化につながるのではないかと思う。

- ・過去に子育てを経験した人は、自分の考え方が自分の記憶に偏りがちになってしまい、現在の家庭環境・子育て環境を理解していただけない方がいる。『子どもは社会の宝であり、社会全体で育てるもの』という現在の共助の考え方を理解していただき浸透させるためにも地域の交流イベントは重要。
- ・子育て中の世代は、仕事を持っていると時間的な余裕がなく、自分の目の届かない場所での子どものふるまいが分からないことが多い。防犯のためにも近隣住民が子どもの顔とどこの家の子どもかという位は知っておいてほしい。
- ・『子どもを3人育てられるまち』を作るためには、まず、『1人目から育てやすいまち』をつくるのがテーマ。特に防犯・防災面の整備が求められる。
- ・これからの時代、行政に金銭的な援助を求めることは困難。地域・行政・個人の役割分担とマッチングがテーマ。
- ・行政は人材情報の確保と、埋もれた人材の活用・情報発信という役割が良いのではないか。子育て世代が保育のボランティアや一時預かりを求めており、子育てや仕事を卒業した世代が次の活動の場を求めている。行政はその二つの世代の仲介をする機能が求められる。

コーディネーター：三重大学副学長 人文学部教授 児玉 克哉

分科会 テマ：「世界に向けて開かれたまち」（国際交流）

参加者：4名

【国際交流】

- ・ 少子高齢化が進み、「仕事がない」という時代から「仕事をする人がいない」という時代が近い将来訪れることが想定される。
 - ・ ヨーロッパでは、外国人の占める割合が約20%となってきた。
 - ・ 今後、外国人とどのように関わっていくかは、真剣に検討していかなければならない。
 - ・ 他の文化が入ってくることは、悪いことではないが、摩擦は起きる。
 - ・ 桑名のまちづくりをしていく上では、世界の視野を持ってまちづくりをしていくことが大切。日本だけに留まっていたら、まちは伸びない。
 - ・ 桑名は非常に恵まれた立地条件（交通・自然）にあるため、上手く活かして成長していくためには、世界の視野（国際的視点）からまちづくりをしていくことが必要。
 - ・ 世界が認めれば、日本の中でも認められる。
 - ・ 桑名は歴史、文化もあり、テーマパークもある非常に多くの観光資源を持った町である。この資源をこれからどのように生かしていくのかを考えていかななくてはいけない。
 - ・ インターネットなどを上手く活用し、いろいろなアイデアを出していくことが大切。
 - ・ 桑名に住む外国人とどのように交流していくのか。世界にどのようにアピールできるのか。それぞれ検討していきたい。
-
- ・ 国際都市桑名がどれだけ現実味を持ち、どのような国際交流の町を目指していくのか。
 - ・ 国際的なコミュニケーションが取れる町をどのように作り上げていくのか。
 - ・ たくさんの外国人が生活をしているが、行政のフォローがあまりされていないと感じる。もっと親しく付き合えるようなサポートが必要ではないか。桑名市は他市と比べて遅れていると感じる。
 - ・ 外国人が多くいる中、生活支援、サポートをするところがないことから、大山田案地内にある集会所で、外国人に対する日本語教室での日本語支援と外国人児童への学習サポートをボランティアで行っている。
 - ・ ブラジルでは、ある程度の年齢になると教育は任意となる。子どもと一緒に働くために日本にきたら、学校に行かなくてはならない年齢で、あわてて学校に行かすというケースもある。
 - ・ 仕事もなかなか見つからない中、子どもに手をかけられないのが現状。
 - ・ まずは、正しく正確に外国人のことを知ることが大切であり、正しい知識を持たないものが、うわさ話や推測することはよくない。
 - ・ 外国人との交流の場がほとんどないため、お互いに交流できる仕掛けが必要だと思う。

- ・このまちに来たら、交流ができるということが実感できる取り組みを、外国人も交えて市全体で取り組むことが大切。
- ・その一つとして、文化・スポーツを通じた交流を行ってはどうか。
- ・スポーツを通じて交流を行うことにより、マナーやルールを学んでもらうことも大切。
- ・交流が深まってれば、高齢者や子どもたちもまきこんで親交を深めていく。
- ・外国について触れれば触れるほど違和感は無くなっていくため、そのような機会を増やす取り組みが大切。
- ・「スズカ」は世界的にもF1（モータースポーツ）でよく知られている。
- ・桑名にも何か核となるもの、できるものはないか。例えば、国際的な自転車レースを開催できないか。
- ・知名度を高めていく取り組みは必要であり、合わせて外国人と一緒にになって取り組みを進めていくことが大切である。
- ・国際教育も重要であり、互いの言語を大切にすることが多文化教育にもつながっていく。
- ・外国からの子どもたちに日本を理解してもらい取り組みを行うことにより、20年、30年後に日本で生活をする外国人のリーダーになってもらえれば、関係も上手くいくのではないか。
- ・国際都市連携も大切なキーワードとなる。現在、桑名市はどの町とも友好都市連携を行っていない。
- ・木曾川の下流三川分流計画に力を注いだ技師のヨハニス・デ・レーケの生誕地がいいのではないか。（オランダのコレインスプラート）
- ・特定のまちにこだわるのではなく、桑名の特性を生かし、いくつかのまちと連携をしていくことが大切である。
- ・行政が主導で行うよりも、企業や市民団体などが中心となって連携をし、行政は後押しをするやり方がよいのではないか。
- ・例えば、歴史や観光のまちとして交流をするのであればサンマリノ市、福祉のまちとして交流をするのであればルンド市など、いろいろとピックアップして検討してはどうか。

コーディネーター：三重大学地域戦略センター 社会連携特任教授 西 孝

分科会 テマ：「地理的優位性を活かした元気なまち」（都市基盤整備・観光・交通）

参加者：10名

【中心市街地】

- ・なかなか進んでいるようにみえない駅西開発及び駅のバリアフリー化の進捗は、問題ではないか。特に近鉄の駅がバリアフリーでないことは問題であると思う。
- ・外来者を増やしたり、住民の利便性を上げるためには、桑名駅をはじめとする駅舎を、きれいにすることが必要だと思う。

【道路】

- ・桑名市は、公共施設の耐震化は進んでいるため、それほど問題でないと考えるが、国道1号伊勢大橋の架け替えについては、交通面だけではなく、津波等の防災面からも、早期に進めていく必要があるのではないかと。
- ・新しく道路を整備するより、今ある道路を上手に工夫して、いかに使用していくかというマネジメントの考え方も大切。
- ・費用を抑えて社会基盤を整備するかを十分に検討する必要があるのではないかと。特に、道路整備等では、鉄道と立体交差にするか、平面交差にするかなどを良く検討することが大切。
- ・車椅子にとって、危険な凸凹の道路や坂道がまだまだある。

【公共交通】

- ・桑名の公共交通機関に恵まれた立地の良さを活かして、社会基盤整備をおこない、観光客の誘客を進めたり、企業誘致を進めて行くことが良いのではないかと。

【就労環境】

- ・桑名市における就労環境においては、名古屋へのアクセスの良さも手伝って、悪くはないと思う。
- ・桑名市内の働く場所の確保としての企業誘致も、住環境の整備とセットで考えて戦略的に進めて行かないと、短期間ではなく長期間市内に住み、働く人が根付かないのではないかと。

【その他 都市基盤整備】

- ・既存の公共施設の管理については、現在、業者への委託、指定管理者制度、PFIなど様々な方法を用いて管理をしているが、市民の要望や声を聞くなどして、市の得意な分野、民間の得意な分野を検討し、管理方法を検討した方が良いのではないかと。
- ・観光客を増やすにしても、交通渋滞等で住民の生活を犠牲することなく、観光客も住んでいる市民も喜ぶような街づくりを進めていくことが大切。
- ・現在の総合計画においても、～住み良さ日本一をめざして～と住環境に力を入れているが、これからも、工業都市や商業都市というよりは、住みやすさを活かした街づくりをし

ていくことがよいと思う。

- 住宅団地と道路との関係など、桑名市として一貫性を持った都市計画をしていただきたいと思う。